

平成29年度 第1回 介護・医療連携推進会議 記録

● 事業所情報

法人名	清和園 久世ホーム
事業所	久世訪問介護事業所

● 開催日時・場所

日時	平成29年5月26日(金) 14:30~15:00
場所	久世ホーム 1F 仏間

● 参加者(順不同)

NO	所属(役職)	氏名
1	岡林医院(下京西武医師会理事、副会長)	岡林様
2	民生児童委員協議会 副会長	植松様
3	久世訪問看護事業所 代表	上田様
4	京都市久世地域包括支援センター 主任介護支援専門員	竹村様
5		
6		
7		
8		
9	久世訪問介護事業所(管理者) 久世ホーム副施設長	中村 真悟
10	久世訪問介護事業所(計画作成責任者)	戎谷 高士

● 議事

NO	議事内容
1	サービス利用状況、苦情、事故報告について
2	事例報告について

● 記録

議事 1	サービス利用状況に、苦情、事故報告について
	<別紙配布資料にて報告>
中村 副施設長	<p>利用状況にてご報告させて頂いた通り、ご利用件数が徐々に増えてきています。また随時対応に関しての回数の減少に関して緊急訪問の回数が減少してきていることは、ご利用者のアセスメントが適切に行われ、日中の定期巡回でのケアが適切に提供されているからだと考えています。</p> <p>定期巡回は、その事業特性であるサービスの柔軟さが、介護支援専門員のロコミや事業に対する認識の向上により、新規利用の増加や問い合わせにつながっていると思われます。地域での登録者数は、京都市内でもかなり多い数値となっています。</p>
戎谷	<p><苦情、事故報告について報告></p> <p>苦情については新規利用で始まったご利用者のケースで事業所からの調理に関しての対応について手の込んだ調理はヘルパーの援助ではむづかしいとお伝えしたところ、御家族から「煮物ができないとはどういう事なのか？」と受け取られてしまったことと、みそ汁の調理での豆腐の切り方の大きさに関して「もう少し小さくならないか？」等の確認のご連絡があったことを報告する。</p> <p>事故に関しては服薬での訪問時に御家族との連携不足から服用忘れに繋がってしまった事例1件について報告する。</p>
植松様	細かな苦情が多いが本来であれば家族が対応していくべきではないか？
中村 副施設長	ご家族との連携を取ることでご利用者へのより良いサービス提供につながる。今回の事例についてもアセスメントをより細かく行う事でさらに良いケアの提供に繋がっていく。
議事 2	事例報告について
	<別紙配布資料にて報告>
中村 副施設長	現在久世ホームで使用している定期巡回のケアシステム（スマケア）では情報がリアルタイムで得られ、援助に内容の確認が行えるため医療との連携や訪問看護との連携が非常に取りやすい。
上田様	今回の事例に関しては久世訪問看護も関わった。病院の主治医かたホスピスの提案をされたが、ご自身、御家族の“自宅で最後まで過ごしたい。”という意向を尊重しケアに当たることが出来た。
竹村様	定期巡回の事業所は京都市内でも少なく必要な方に必要なサービスを提供できるサービスと感じる。今後もニーズに合ったサービスの提供を行っていきたい。
岡林様	資料の数字を見ても段々とサービスが定着してきているように感じる。
戎谷	貴重なご意見ありがとうございました。今後もより良いケアの提供が行えるよう、適切なアセスメントに基づいたサービス提供を行っていきたいと思っています。

以上

作成者	戎谷 高士
-----	-------